

令和5年度 アクションプラン試行（報告）

緑と公園の推進会議で検討を進めてきた「アクションプラン」を以下のとおり試行しました。

当日の状況、参加者へのアンケート結果を共有いたします。

概要

開催日時

令和5年11月19日（日） 9時30分から12時30分まで

参加者

22名（お子さん9人、保護者6人、推進会議構成員7人）

ほか、区職員9名、赤塚植物園管理者が運営・誘導等に参加

当日の状況



①トンボ池の紹介



②トンボ池の生き物採集



③湧水の水質検査



④美術館裏の水路探検

イベントの状況（つづき）



⑤分水点の観察



⑥赤塚植物園の池の生き物観察



⑦サトイモ掘り



⑧サトイモ洗い



⑨サトイモの調理



⑩キヌカツギ
※皆さんでおいしくいただきました

参加者アンケート結果

6名全員から「また参加したい」と回答をいただきました

お子さんからの回答（6名から回答）

Q. 楽しかったことは？

農業体験（5名）

- ・収穫体験（5名）
- ・調理（1名）
- ・試食（1名）

食べることより、収穫体験が記憶に残ったようです

湧水探検（1名）

- ・水質調査

色が変わるのが新鮮だったようです

Q. また探検隊をやるなら何したい？

- ・赤塚植物園を回りたい
- ・工作してみたい
- ・生きものを捕まえてみたい（2名）
- ・野菜の収穫

実際に“体験”することに興味をもつ傾向があるようです

その他自由意見もいただきました

【良かった点】

- ・普段は入れない場所に行けて楽しかった
- ・収穫体験は絶対にあったほうが良い
- ・包丁を使ったので「自分でできた」と感じた

【改善点】

- ・こまめに休憩をとりたい
- ・情報量が多かった
- ・それぞれの説明箇所です質問コーナーがほしい

保護者からいただいた回答（5名から回答）

Q. 赤塚に来る機会が増えそうか

増えそう（2人）

変わらない（3人）

減りそう（0人）

頻度は変わらないけど、湧水やトンボ池を気にして見るようになると思うという回答も2名からいただきました

Q. お子さんは興味を持っていたか

	かなり	そこそこ	いまいち	全く
湧水		3人	2人	
農業	3人	2人		

保護の皆さんからは、お子さんは湧水より農業に興味を示す傾向に感じたようです

Q. 説明方法はお子さんに合ったものか

	かなり	そこそこ	いまいち	全く
湧水	1人	1人	3人	
農業	4人	1人		

体力・集中力の面で専門的な言葉が頭に入りにくかった、というコメントもいただきました

Q. 改善点は？

【湧水探検について】

- ・説明が小学校低学年には難しい
- ・湧水が流れているところが見えない
- ・湧水の魅力や必要性をもっと理解したかった

【農業体験について】

- ・キヌカツギがどんなものか（調理法・名前の由来・食べる時期など）説明がほしかった

【全体について】

- ・持ち物に帽子や軍手があってもよかった
- ・湧水探検の前に、赤塚植物園で荷物を預かってほしかった

Q. 湧水と農業の組み合わせにより、魅力が向上したか

- ・最後の農業体験で楽しい印象で終えれた
- ・新たな一面が見れた
- ・散策・体験後の里芋のおいしさは格別だった
- ・異なる面白さを体験できた
- ・子どもも飽きずに一日楽しめた

組み合わせることについては概ね好評でした

ご指摘を次回に繋げていきたいと思っています
改善点だけでなく、
・子どもの年齢を把握していて進行がスムーズだった
・子どもそれぞれに体験の機会（検査・調理）があった
など良かった点もいただけたので、継続したいと思っています

協力者向け・構成員向けアンケートは次頁に続きます

参加者アンケート結果（つづき）

協力者からの回答（3名から回答）

Q. イベントをしてよかった点は？

- ・行政の情報を区民に還元できた
- ・自身が知らなかった赤塚の魅力を再発見することができた
- ・地域をテーマにすることができた

Q. 苦労した点は？

- ・年齢層が幅広かったため対応方法に苦慮した
- ・子ども向けイベントの経験が少なく、言葉遣いから、工夫が必要と感じた

Q. 改善できる点は？

- ・いくつかのパートに分ける（①湧水編 ②歴史編 など）
- ・対象の世代を広げる
- ・ゆとりある時間設定にする
- ・地元の方から解説していただく

Q. 地域と連携して得られることは？

- ・住民参加が得られ、町会活動・防災活動に広げられる
- ・知識が豊富なため、より内容の濃いものができる
- ・交流することで多くの「気づき」をもたらしてくれる

Q. 地域との連携のために必要なことは？

- ・ボランティア団体との調整は区が出るべき
- ・行政側が地域の方にどのように協力できるのかを考え、話し合い、良好な関係を築くこと
- ・地域の方に馬鹿にされないこと（誇りの強い方に素人な部分を見られると落胆されてしまう。）

協力者からも、地域と連携することによるメリットがあるという回答をいただきました

イベント自体の改善（話し方の工夫、長いイベントの簡略化等）だけではなく、準備段階から「地元の方」と関わっていきけるように、次回は調整したいと考えています

構成員からいただいた回答（5名から回答）

【良かった点】

【湧水探検】

- ・通常は入れないところに入れてよかった
- ・ビオトープ周辺の配布資料がわかりやすい
- ・水質検査を各自ででき、目に見えてわかる体験ができたこと

【農業体験】

- ・声が聞き取りやすかった
- ・収穫～調理までの段取りがよく組まれてスムーズだった
- ・レシピを配布していたのが良かった

【全体として】

- ・企画者の意気込みが表れていた
- ・赤塚植物園に休憩場所が用意されていた

他にも、
・子どもは「希少さ」より「面白さ」の方が興味を示す
・ロコミが重要、広報の工夫でリピーターを増やすべき
・サブタイトル（湧水はどこから？など）をつける
というご指摘もいただきました。

来年度の試行に向け、参考にさせていただきます

【改善点】

【湧水探検】

- ・列が長くなって説明が聞こえにくかった
- ・湧水が導水管から出てくるのだと実感がわかない
- ・条例や補助金制度の説明は子どもには難しかった
- ・運営が大変そうなので簡略化（省力化）しないとイベント自体の継続が難しそう

【農業体験】

- ・サトイモを掘り、一旦手を洗った後に落花生を収穫するということで、身支度の関係から流れが悪かった

【全体として】

- ・3時間は長い
- ・探検隊っぽく感じる工夫が必要（名札や共通のものの配布等）
- ・子どもに対する接し方に工夫が必要

試行の検証

今回試行したことで、以下の点について検証することができました。

試行の目的① 赤塚地域の持つ魅力を多くの人に知ってもらう

結果 1 赤塚地域の魅力を知るきっかけになった

- ・赤塚植物園を回りたい、というお子さんがいた
- ・普段は入れないところに入れた、という好感触な回答があった

結果 2 魅力を知りたくなるような工夫が必要

- ・退屈してしまったり疲れてしまったお子さんがいたことから、内容の改善が必要

試行の目的② 多くの人に赤塚地域を好きになってもらう

結果 1 赤塚地域のことを好きになるきっかけとなったと言える

- ・参加者全員から「赤塚探検隊にまた参加したい」と回答があり、魅力を伝える一定の効果があったと言える
- ・「赤塚地域に来る機会が増える」と考える保護者が2名いた
- ・来る機会は増えないにしても、「トンボ池を気にして見るようになる」と考える保護者が2名いた

結果 2 継続して魅力を発信していくための改善が必要

- ・協力者アンケートで、「継続していくことができるかわからない」との回答が多かった（3名中2名）
- ・イベントを継続するために、運営の負担を減らす工夫が必要
- ・今後、広報の方法について検討が必要

試行の目的③ 赤塚地域の人に、自分たちの町に誇りをもってもらう

結果 協力者にとっても、達成感のある内容だったと言える

- ・今後5年、10年と腰を据えて取り組みたい、という回答があった
- ・赤塚地域の方から協力を得ることができる体制づくりが必要

令和6年度の予定

令和6年度には参加者を公募して再度「赤塚探検隊」を試行する予定です。
今回の試行で見えた課題や皆さまからのご指摘をもとに、皆さまとともに改善していきたいと考えています。

（令和6年度 試行の想定）

時 期：令和6年10月後半頃

対象者：お子さん15名程度（公募）

※保護者も10～15名程度一緒に参加することを想定

※対象年齢については未定

内 容：湧水探検と農業体験の組み合わせ

湧水探検についてはポイントを絞り、参加者が飽きないよう工夫